

進路だより

札幌市立幌東中学校

第 19 号

2026.8.25

令和9年度 入学者選抜についての情報

公立高等学校一般入試の「学校裁量」の表に掲載されている「学力点(当日点)と学習点(調査書)の比率」について説明します。1学期に進路探究学習の時間に担任の先生から説明がありましたが、改めて掲載します。

まず、定員の70%を「学力検査の成績:評定を1:1」として選抜します。その後、15%を「学力点重視」、15%を「評定重視」として選抜します。

この「複数尺度による選抜」の学力点と学習点の割合は学校により異なります。

【例】 札幌東高等学校	学力点重視	8:2	評定重視	6:4
札幌西高等学校	学力点重視	10:0	評定重視	6:4
札幌月寒高等学校	学力点重視	9:1	評定重視	6:4

※「学力点重視 8:2」とは、学力検査の成績を8割、個人調査書の「各教科の評定」を2割とすることです。

数年前から公立高校入試では、これまでの300点満点が500点満点になり、英語の聞き取りテストの割合が増え、試験時間が各教科45分から50分に変更されました。「全ての教科で、基礎的・基本的な知識及び技能とともに、思考力・判断力・表現力等についてもバランスよく出題する」という方針で、以前までの「裁量問題」のような難易度の高い問題も出題されます。また、多くの私立高校からも、公立と同じようなレベルで問題作成をすると案内が届いています。

さらに、公立高校の推薦入試が「自己推薦」になり、多くの公立高校で自己推薦での志願者が増えました。(例えば、昨年度の市立札幌旭丘高校では、自己推薦入試定員48人の枠に100人の出願がありました。)これまでよりも「なぜその高校に行きたいのか」を問われる志望校選びとなります。

「自己推薦入試」については、後日また進路だよりでお伝えします。

令和9年度 入学者選抜についての情報

その②

令和9年度公立高等学校入学者選抜における「学校裁量についての実施予定一覧表」(各クラスのクラスルームにあります)の、「学力検査の傾斜配点」について説明します。導入している高校と、していない高校があります。例として、札幌北高等学校の「傾斜配点」を紹介します。

【例 札幌北高等学校の「傾斜配点」】

英語と数学の得点をそれぞれ2倍にして200点満点(2教科で400点満点)にします。国・社・理は100点満点で、合計700点満点になるので、5/7倍をして500点満点に圧縮、他校と同様の500点満点として選抜を行うことになります。「国・社・理」よりも「数・英」を重く見る高校入試になります。数学と英語が得意な受験生にとっては、入試の当日点を伸ばしやすいでしょう。また、昨今の大学入試で重要視されている「英語の能力」を伸ばすことなどに入試段階から注力していると言えるかもしれません。

令和9年度入試で「傾斜配点」を導入している高等学校は、北海道札幌北高等学校のほか、市立札幌旭丘高等学校(数理データサイエンス科)、北海道札幌啓成高等学校(理数科)、北海道札幌国際情報高等学校(国際文化科)、市立札幌清田高等学校(グローバルコース)などがあります。教科・配点は学校により異なりますので、各自で確認してください(「学校裁量についての実施予定一覧表」の、「学力検査の傾斜配点」という欄に記載があります)。